

『富士山明細図の続きだったな。さて、4～7番までの絵図には、刻々と変化する富士山の表情が描かれておるんじゃ。8番は諏訪ノ森出口が描かれ諏訪ノ森を抜けると大きくそびえる富士山が姿を見せてくれるんじゃ。9番は三里ヶ原始と言って、現在は植林が進み、この当時の面影はないが、ススキの原の草原だったんじゃよ。この草原は馬返しまで続いたんじゃよ。この間を「草山三里」と言ったんじゃ。』

『三里ヶ原始の絵図には、「御仙瑞」と刻まれた石碑が見えるでまっすん。仙瑞の名前の由来には、源頼朝の伝説があるでまっすん。それは、建久4年(1193)の富士の巻狩りの時、頼朝は喉が渴いたので、浅間神社に祈願し鞭(あるいは弓)でそばの岩を打ったところ泉が湧いたというもので、仙瑞は仙元(浅間)の奇蹟だと説明されているでまっすん。』

『とても興味深い話じゃな。源頼朝が富士の巻狩りに来た話は有名な話じゃな。少し話がそれてしまうが、源頼朝の話は、現在皮膚病に良いとされる明見の不動湯にお祀りされている不動尊とも関係が深いんじゃよ。源頼朝の息子である、源頼家が大鹿を射止めた場所は、鹿留と呼ばれたんじゃ。鹿留は都留市にあるんじゃが、忍野村内野の二十曲がり峠からも行けるんじゃよ。さて、頼朝は息子の手柄が嬉しくて、その場で妻の政子に手紙を書いたんじゃ。現在の不動湯の地には、大同2年空海上人によって一宇が建立されたんじゃ。その近くに清水が湧いていたんじゃよ。伝説によると、この清水で墨をすって頼朝が手紙を書いたことから、硯水不動尊と称されたんじゃ。この話には続きがあつてな・・・』



クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でまっすん...

ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)



『おいらが話すでまっすん。頼朝が富士の巻狩りをするためには、手伝った人たちがいたでまっすん。手伝いをした人は、平清盛に負けて忍草村に逃げた大森一族の末裔だったでまっすん。大森一族の手伝いによって頼家が鹿を仕留めた褒美をいただくことになったでまっすん。畠山重忠と和田義盛によって、鳥居峠鬼坂に仁王像(伝運慶作)を建立したでまっすん。この仁王像は、現在忍草浅間神社の境内にあるでまっすん。』

『そうなんじゃよ。平成15年に仁王像は修復されたんじゃ。修復した折に、仁王像の中に修復の札(記録)が残されていたんじゃよ。札には二天となっているが、村人は仁王様と呼び親しまれてきたんじゃ。由緒のある像であることは間違いないからのう・・・専門家に調査してもらう必要があると思うんじゃよ。仙瑞の話から横道にそれてしまったな。次回も、富士山明細図から様々な話をしようと思っておるぞ・・・』

※参考資料：千手院縁起

富士吉田市歴史民俗資料館 企画展図録「富士山明細図」

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定